

# 2022 年春学期/ウィニペグ大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで記載されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

## 1. 授業について

### 授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

授業の形態は morning class と afternoon class に分かれていました。授業はほとんど毎日 8:30 から開始し、朝の授業は 11:20 までありました。クラスは general クラスと academic クラスがあり、前者はスピーキングを重点的に学び、後者の academic クラスは文法をメインに授業を進める形態でした。私はその中でも general クラスに在籍していました。授業の進め方については朝は英語の基礎を固める授業になっていました。具体的には英語の発音や普段の日常で使う英会話を重点的に学びました。

授業はグループワークやペアワークでディスカッションすることが多かったです。

授業形態はディベートやグループディスカッション、プレゼンテーションが多かったです。進め方は、その週で学習することをその一週間はそれのみを学習し、毎日復習があったのですぐに頭に入ってきました。

先生が私たちの理解度をきちんと確認しながら進めてくれていたので、すごく良かった。質問があったら、すぐ聞けるような雰囲気だった。

毎日文法、スピーキング、ライティング、を行った。

スピーキングが中心のクラスだったので、ペアワークやグループワークがとても多かったです。毎週特定のトピックが決められていてそのトピックに関すること、各国での違いを学びました。また、語法やイディオム、文法なども授業の中で学びました。学生一人一人特定のトピックでプレゼンもありました。

授業形態は、午前のクラスでは、3 時間弱授業があり折り返し以降のキリの良いところで 15 分休憩を入れていました。午後のクラスでは、2 時間強授業がありキリの良いところで 10 分休憩を入れていました。進め方は、午前のクラスでは、少し説明して問題に入り、文章問題などの少し時間がかかるものは宿題でやってきて授業で答え合わせと解説をやる感じでした。ディスカッションも各セッション毎に一回以上は必ずありました。午後のクラスでは、reading の授業は、読みとディスカッションを9:1の割合でやっていて、writing の授業では、新しいことを教えてもらってそれを使って学習して、余ったら宿題という形でやっていました。

午前と午後で一コマずつで、2時間くらいで間15分休憩があった。文法、技法、発音などバランスよく学び、主にペアや少人数で話し合うことが多かった。2 回ほどみんなの前でプレゼンする機会があった。またディベートもした。

### クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

朝のクラスでは 27 人中 26 人が日本人で、1 人がパナマ人の方でした。昼からのクラスでは片方のクラスがエクアドル、ペルー、ブラジル、ドミニカ、の国の方が 1 人ずつおり、その他は約 15 名ほどが日本人でした。またもう片方の午後の授業ではドミニカ、ブラジル、ベトナム、ペルー、パナマ、エクアドルの国の方が 1 人ずついました。主に南アメリカから英語を学びに来ている方が多かったです。

9割日本人でした。フィリピンとコロンビアの留学生もいました。

クラスは 30 人ほど、そのうちの一人だけパナマ人でそれ以外は日本人でした。クラスによって比率は様々です。

私のクラスは特に外国人が多いクラスで、オンラインから受講する学生を含め外国人留学生 20 人に対して日本人 2 人だった。南アメリカ出身の人が多く、ドミニカ共和国、ペルー、コロンビア、エクアドル、ブラジル、チリ、マレーシア、台湾など様々だった。

20人前後、日本人7割、スパニッシュ3割

午前のクラスの人数は、対面とリモート合わせて 14 人ぐらいでした。日本人と留学生比率は、4:6で日本人の方が少なかったです。出身国は、日本、韓国、ベトナム、ブラジル、南米の国(国名忘れまし)

午前の授業: 28人(日本人27人、パナマ人1人) 午後の授業: 20人(日本人17人、ブラジル人1人、パナマ人1人、ドミニカ共和国1人)

### クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

クラスの雰囲気では日本人が約半分以上の割合でしたが、英語を上達させたいと思う強い気持ちを持った生徒さんが多く、授業終わりには図書館で勉強している人が多くいたため、私自身も彼らに影響を受け、授業終わりは図書館に行き、毎日約3~4時間ほど、自習を行いました。日本人の生徒が多かったものの、そういった方たちのおかげで自分も頑張らなければと毎日のように良い刺激を受けていました。また外国人のほとんどが英語を主言語としない方たちで、家庭を持っている方たちがカナダで新たな職を見つけるために英語を学んでいました。そのためモチベーションも高く、彼らからも刺激を受ける毎日となり、英語を学ぶにはとても良い環境でした。

集中して授業に参加できる雰囲気でした。

グループワークが多いので発言する機会が多かったです。

周りの留学生の年齢が40代や50代など大人の方が多く、非常に温かい雰囲気であった。私が発言を躊躇していると、間違ってもいいからがんばれ！！とみんな言ってくれた。日本では多くの人が、間違いを恐れ黙ってしまうが、彼らは間違いを気にせずもし間違えたとしても前向きに「あ〜、そうだったのか。良いこと聞いたぞ。」のように捉え、授業に対して非常に積極的である。

自分の意見を言う機会が多かった。

日本では先生が誰かを指名して答えるという雰囲気ですが、他の国から来た留学生はとても積極的で当てられる前に発言していました。また、授業中に質問をすることが多い印象です。

クラスの雰囲気は、外国人も日本人もわからないところがあれば質問し、皆積極的に授業を受受けていた印象があります。

自分たちで話す場面が多い。わからないところや自分の意見を積極的に、自発的に発言するのがふつうなかんじがした。発言がしやすい環境だったと思う。

### 授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

授業で取り上げられたものの中で印象に残っているものは文化に関するトピックです。私の留学先国が多文化社会を重視するカナダということもあって、様々な国の文化への理解を深める内容の授業が多かったです。また6月27日は多文化主義を祝う日がカナダには存在しており、私の留学先の地域でも各地で互いの文化を象徴するイベントが行われていました。またその他には、英語の発音に焦点を当てた授業が多かったです。多くの日本人が苦手とする「L」と「R」の発音の仕方などをインストラクターの方が重点的に指導してくださったことで、私自身も今一度、自身の英語の発音に関して練習する時間があり、留学前に比べると発音は上達しました。

環境問題やカナダの文化について学んだことです。

文化の違いを取り上げる授業です。クラスに他国の人がいたのでその人から直接いろいろ聞くことができる環境なのはよかったです。

世界各国の寿命についてのトピックが非常に印象に残っている。先生がクラスの生徒の出身国の国民の平均寿命を調べたところ、日本がダントツで高く周りの留学生から驚かれたのをいまだに覚えている。

世界の問題

雇用、ボディランゲージの違い

午前の授業は時事問題だったり、さまざまな国のことをテーマにして授業をしていた印象があります。

グローバル 이슈

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

授業を受けるにあたって工夫していた点は毎週木・金曜日と午前中に1週間のまとめの小テストがあったのですがそのテストに向けて授業後はきちんと学んだことを復習し、次の授業に挑んでいました。また先生が良く使うフレーズなどを聞き取って、その聞き取った単語などをよくメモし、授業内や普段の生活の中で使うように日ごろから意識していました。その結果、普段の日常会話の中で使うフレーズの引き出しが増え、英語力が少しずつ上達していきました。

わからない単語はすぐ調べるようにしていました。

毎週末に小テストがあったので日々の復習はしていました。また、宿題も毎日できていたので帰宅後すぐに取り組みました。

私も授業中に先生に当てられないように下を向いたり、積極的に発言を以前はしなかったが、せっかくカナダまで来たのだから自分を変えようと思い、手を上げて発言したり分からないところは先生にすぐ質問するようにするなど心がけた。

分からないことは積極的に質問すること、グループワークが始まった時には誰かが話し始めるのを待つのではなく自分から意見を言いつつ話していない人がいたらどう思うか聞いてグループワークを広げられるようにしたこと。

自分が座る席は自由だったので、必ず外国人の隣に座るようにしていました。グループセッションをする時は、必ず外国人が少しでも多いグループに入れてもらうようにしていました。少しでもわからない単語は、その場ですぐに調べてメモしていました。先生がよく使う単語や言い回しは、メモして自分が使えるようにしていました。会話や発表の中で、使うようにしていました。

分からないところは、その場で先生に質問したり、友達に聞いたりして、解決すること。分からない単語はメモし、似ている言葉やどんな場合にその単語を使うのか調べて自分のものにできるようにしていた。

## 2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの人でしたか。
0人 (1人)	
1人 (4人)	日本, メキシコ, 中国
2人 (3人)	日本, 韓国, メキシコ, 中国

通学手段	通学時間	主に食事はどこでとっていましたか。
徒歩 (4人)	15分~30分 (8人)	大学内のカフェテリア (0人)
自転車 (0人)	30~45分 (0人)	
バス (4人)	45~60分 (0人)	ホームステイ先 (8人)
電車 (0人)	60~75分 (0人)	

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
6つのポケットがあるタンス・ベッド・椅子二つ・勉強机・ハンガー・扇風機・ロッカー	洗面用具・衣服・カード・携帯・筆記用具・電子機器(電子辞書・iPad)・スティックコーヒー・ホストファミリーへのお土産・クレジットカード・現金・ノート・普段から使用している英語の参考書・単語帳
ベッドや机、棚	シャンプーやリンス、ボディソープなど。
机、ベッド、クローゼット、ライト、ハンガー、タオル、鏡	ティッシュ
ベッド、電気、クーラー、引き出し、タオル一枚、学習机	洗顔類(化粧水や乳液)
ベッド、勉強机、クローゼット、鏡など	化粧水など
ベッド、机、洋服タンス、クローゼット、ハンガー、ドライヤー、シャンプー、ボディソープ	シャンプー、リンス、ドライヤー
机、ベッド、タンス	服、筆記用具、日用品、

### ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。

洗濯が一週間に一度しかない。入浴はシャワーのみ。基本どこかに行く際はみんなで一緒に行動することに驚きました。日本と比べると家族を大事にするという考え方があり、とても素敵だなと思いました。土日の朝昼は基本兼用(ランチという形で食事が出されました)だったこと。主食は肉やイモ類です(ホットドックやポテトなど)。夕食がホットドックという日もありました。

お風呂(浴槽)がないこと。

シャワーの時間が決められていたこと。

洗濯が週に1回だったので下着やタオルなどが複数必要だった。洗濯が終わると外には干せないで乾燥機に入れるのが基本でしたが、縮みやずい。

### ホームステイ生活を快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

留学でホームステイや寮に入って1週間はカルチャーショックを受けるかと思います。しかしその問題も時間が解決してくれるかと思います。またホームステイに入居される学生さんは極力時間の許す限りはホストファミリーの方とコミュニケーションを取ってください。夕飯の支度やスーパーに行く際は積極的に一緒に行動すればホストファミリーの方ともより良い関係が築けるかと思います。また大抵のホストファミリーの方は過去に多くの留学生を受け入れておられますので、英語に関する質問もたくさんしましょう。普通のホストファミリーの方が話している会話から学べることも多いです。

気を遣わずにホストファミリーと過ごすこと。

ほかの国でほかの人と暮らすので、広い心で受け入れることです。

積極的にコミュニケーションを取ろうとすることが一番重要だと思う。ホストファミリー同士が話していて、聞き取れなかったり、何を言っているか理解できなかったりしても黙ったり分かったふりをしたりするのではなく、それどういう意味??や今なんて言ったの?などコミュニケーションの種となるような物を自身で見つけていくことが非常に重要だと思う。

部屋に籠らずに積極的にホストファミリーと話すこと。生活するにあたっての疑問は必ずきくこと。

パソコンは持参 しましたか	携帯電話	インターネットは部屋から 接続可能でしたか。	その際に費用は かかりましたか。
はい(8人)	日本の携帯をそのまま持参(1人)	ワイヤレスで可能(2人)	はい(2人)
いいえ(0人)	日本からSIMカードを持参(7人)	LANケーブルで可能(6人)	
		不明(0人)	いいえ(6人)

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。

学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など

大学内では日本文化のイベントを自ら企画し、企画書を現地のスタッフの大学に提出しイベントを成功させました。当日のイベントは約50名ほどの参加者に参加していただきました。イベントの内容は折り紙で鶴を折ったり、お箸で豆をどれだけ使えるかを競争するゲームをしたり、お茶やみそ汁が飲めるコンテンツなどを用意しました。その他にも他国の文化を受け入れる“Folklorama”というボランティア活動が約2週間にわたって行われていました。私もそのイベントにスタッフとして参加し、日本文化のブースでかき氷を作りました。そのイベントを通じて日本文化が海外の方にとって人気のあるものと改めて再認識することができました。

学内では図書館を毎日利用していました。1人で図書館に行き、1人で勉強することが多かったです。また学校近辺では Tim Horton という日本と言うとドトールコーヒーのようなコーヒーショップ近くにありました。ほとんどの学生さんはそこでコーヒーを買い、学校に戻って勉強している人がほとんどでした。また Tim Horton は値段も安く多くの人利用されていました。またこのお店はカナダにしかないそうです。またドラママというショップがあり、日本で言うところの 100 円ショップでした。安い価格でいろんなものを購入できたので、お土産などでこのお店を訪れることをお勧めします。

毎週金曜日にアクティビティがあったので参加していました。

学校終わりにカフェに行ったりご飯に行ったりしました。

友達と買い物やフェスティバルへの参加。

The Polo Park という、モールをよく使っていました。

ランゲージパートナープログラムに参加しました。オンラインで週に一回 1 時間の開催でした。グループに学生数名とボランティアの方が分けられ特定のトピックをディスカッションしたり自分の紹介をしたりしました。

近くの公園

毎週金曜日は、Friday activity というものに参加していました。毎週火曜日は、外国人とのサッカーチームで試合に出ていました。毎週末は、ご飯に行ったり、飲みに行ったり、買い物に行ったり、外国人の友達とジムでガチで筋トレしていました。

ポロパーク→服や雑貨などがあるショッピングセンターフォークス→雑貨と色々なご飯屋さんがあって雰囲気とてもいい

金曜日の午後は、大学主催のアクティビティに参加し、現地のことを学んだ。水曜日の放課後は、スピーキングパートナーのプログラムに参加し、オンライン上ではあったが、英語を話す機会を作っていた。

ジム、ピザ屋、パブ

大学主催のプログラムがとても豊富でした。曜日によりイベントが異なり、大学側のボランティアやインターンの人たちと交流できる場がありました。イベントはカラオケや各国の文化交流、コミュニケーションカフェ、ピザやベーグルなどフリーフードがある日がありました。週末にはセドナやグランドキャニオン、野球観戦、バスケ観戦もありました。また私は大学内のサッカー大会やスペインのダンスレッスンにも参加しました。

大学のジム、図書館、食堂、大学周辺のレストラン

平日は、課題をやったり、ジムに行って体を動かしたりした。休日は、基本ルームメイトと買い物に行ったり、フェスティバルに参加したりした。ホストファミリーがキリスト教を信仰していたので、日曜日の朝は教会と一緒に行ってた。

### 3. 留学前準備について

#### 留学前に取り組んだ準備

私が留学前に取り組んだ準備としましては二つあります。1 つ目は TOEIC などの資格試験の勉強です。大学の勉強のみでは単語や読解力に欠けていた点があったため、その二つを重点的に参考書を利用して春休みの時期は時間を当てていました。また更に、私自身、リスニングが苦手なので週に一度英会話に通っていました。

英語試験を受けることで、英語学習をしていました。また、英語に関する YouTube を見ていました。

スピーキングの学習をした。外国人の友人と電話をした。

単語の勉強。

文法を復習、単語の勉強、よく使うフレーズなどを調べる。

本買って読んでました。

英語の勉強や、現地の観光するところ、なにが有名かを調べる。

#### 留学前にしておけばよかったと思う準備

圧倒的な単語力の低さとリスニング力の低さです。前の設問で準備はしていたものの、海外に行くどこへ出かけたりしても英語になります。そのため、わからない単語やフレーズなどによく出会います。留学後すぐにこの経験をしたため、もう少し留学前に英語とふれあう時間を長くしておけばよかったという後悔はありました。現地の方との会話を楽しむために現地の方が良く使うフレーズなどを事前に学習しておく役に立つかもしれないです。

もう少し、耳を英語に慣らすべきだったと思いました。

海外の映画などを見て、若者が実際に使っている英語を学べば良かったと思った。

英語の勉強、留学先国の知識。

ホストファミリーや授業でも日本に関する文化や歴史、政治問題を聞かれることがとても多いので、その知識が多いと話も弾むし知っておくべきだったと思います。

留学に関するすべてのこと、英語。

英語の勉強、日本の文化。

#### 日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの

私は友人からの勧めで日本で普段使っている参考書を持っていきました。おそらく使うことはないだろうと思い、持っていったのですが意外と授業の復習などで使うことが多く、役に立ちました。ホストファミリーのお土産としてはだるまをプレゼントしました。ホストファミリーの方にとっては目新しいものとなり、喜んでもらえました。また日本文化のイベントではお箸、折り紙、お茶、みそ汁などの日本を代表するものは多くの外国人の方に喜んでいただきました。

基本的には現地で購入することができますが、物価が日本よりも高く、特に日本製は 3 倍ほどするのでこだわりがあれば持って行ったほうが良いと思います。日本のお菓子は喜ばれました。

ドライヤー。喜ばれたものとしては、お菓子のブラックサンダー。

じゃがりこ、文房具、ふりかけ。

外に洗濯物を干せないなので小さめの洗濯ピンチを部屋に置いて乾燥機に入れられないものを干していた。

日本の文房具。

爪切り、日本のハンカチ。

### 日本から持っていく必要のなかったもの

衣服は現地でも調達できるため、そこまでの量を持っていく必要はないように感じました。ノートなどの筆記用具類は持っていく必要はないかと思われませんが、性能に関しましては日本の製品のほうが明らかに良いです(カナダのルーズリーフなどはとても薄く、書きずらいです。またボールペンもところどころインクが出るときと出ないときがあります。)

タオル、ドライヤー、変圧器、ハンガー

大量の洋服

ハンガー

何もないです。

服、目覚まし時計、電子辞書、ドレス(ホストファミリーによる)

### 日本から持参すればよかったと思ったもの

洗面用具系は自分が思ってる以上に用意しておいたほうが良いです。カナダの水は硬水で髪の毛がバシバシになります。そういった点をケアするためにも日本のシャンプーや洗顔用具を多めに用意しておくことをお勧めします。日本とカナダの洗面用具系の質は全く違います。歯ブラシなども使い慣れているものを持参することをお勧めします(カナダの歯ブラシはとても大きいため)。

日本の調味料

マスク。浄水器と水出しできるお茶のパック。

水筒

お茶漬け、さとうのごはん、大量のお菓子、味噌汁

特にない(基本現地でも買える※質は日本のほうが良いものが多いかもしれない。)

## 4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくぐらい準備しましたか。
お金は現金、クレジットカード、キャッシュカードの3点に分けて用意しました。	クレジットカードは上限30万円のもの。キャッシュカードは4万円。現金は3万円ほど準備しました。私は周りとは比べると少ないほうだったので、現金は5万円ほど用意しておくことと安心かもしれません。(留学期間によって必要な金額は違ってくると思います。)
VISAのクレジットカード、キャッシュパスポートプラチナというカード	クレジットカードは留学中に上限を30万円に変更しました。キャッシュパスポートプラチナは親に頼んで、足りなくなったら入れてもらっていました。
クレジットカード、プリペイドカード	現金2万円、クレジットカード上限20万円
クレカ、現金	クレカ上限30万、現金15万
クレジットカード、デビットカード、現金基本はデビットカードで支払いをしました。たまに現地のカードしか使えないお店もあるので現金は持つておくべきだと思います。	デビット→無制限クレジット→30万 現金→2万
クレジット二枚、現金、他も用意したが使ってない。	クレジット上限20万と10万、現金10万
クレカ、プリペイドカード、現金	クレカ:上限50万、プリペイドカード:10万、現金:4万

現地で支払った住居費と食費を教えてください。	テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。
ホームステイであったため食費は基本必要ではありませんでした。週に一度のペースで外食していたため、合計で6~7万円は食費に充てていると思います。	テキスト代はすべて電子であったため、かかっていません。他のクラスの友人はテキストに2万円ほど払われている人もいました。通学費は1か月9000円ほどでバス乗り放題です。このカードがあれば比較的どこでも行くことができたので便利でした。
住居費は留学前にプログラム費用として関西外大に支払いました。食費は基本的に家のものは勝手に食べても良かったので、外食費のみ現地で支払っていました。	テキストは不要でした。また、通学費は大学から家が近かったため、定期等を買う必要がなかったです。
-	テキストは pdf を先生が配布してくれたため、購入していない。また家から学校まで徒歩で行ける範囲だったため通学費用はかからなかった。
-	テキスト代60ドル、通学費 月84ドル
-	テキストはなかったのでなし。通学は徒歩のためなし。
留学費用に含まれているため、現地では住居費・食費は、払っていない。	テキスト代は、2冊で200ドル弱。バスの定期は、80ドル弱。
-	テキストは1セメスター250ドルくらいで合計500ドルくらい。通学はほとんど徒歩か無料バスだったので0円。
-	通学費に約3万円

旅行(大学主催以外)をした場合の期間、費用、行先、手配方法など
<p>ウニペグ大学では留学期間の中旬に1週間ほどの中期休みがあり、そこで私は飛行機を利用してトロントに3泊4日で行きました。飛行機の値段は格安航空会社を利用したこともあり、往復で15000円ほどでした。トロントではメジャーリーグのブルージェイズの試合を観戦したり、ナイアガラの滝を見に行ったり、トロントのダウンタウンを散策し、とても有意義な時間を過ごすことができました。現地での食費や宿泊費全て合わせても、10万円以下で抑えることができました。費用につきましては人それぞれ購入するものが違うことがありますので、多少人によって違うところはあると思います。</p>
7泊9日でカナダ国内旅行に行きました。
留学期中に二回旅行に行きました。一回目は一週間ほど、トロント、モントリオール、ナイアガラに行きました。二回目は、三日間バンフに行きました。両方とも、オンライン予約がほとんどで、わからないことは電話で尋ねました。
トロント、モントリオール、ケベック、バンクーバーへの旅行、20万前後、ネット手配。
学期のちょうど真ん中に約1週間の休暇があったので、トロントとモントリオールに旅行へ行きました。飛行機、ホテル、現地で使ったお金総額で15~20万くらいだと思います。飛行機やホテルはインターネット経由で手配しました。
日本人の男四人で、トロントに4泊5日で旅行に行きました。全部で費用は10万もかかってないと思います。
ミットチームブレイクの時に、友達とトロントに行った。飛行機とホテルはオンライン上で一か月ほど前に取った。費用は約20万くらい。また7月末の3連休にプリンスエドワード島に行った。行きは3回乗り換え、帰りは2回乗り換えていった。ツアーの予約をしていたので、ここでも約20万ほど使った。

### その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。

食費や交通費には少しお金がかかってしまいました。日本と比べると物価が高いため、外食での食費を抑えようとしても安くても1000円は最低かかります。私自身は買い物に行く機会はあまりなかったのですが、洋服が好きな子などは費用がかかってしまうおそれもあります。

50万円ほどです。

一週間くらい学校が休みだった時にいった、トロントとモントリオール旅行に一番お金がかかった。

30万ぐらい。

旅行や友達のご飯、遊びで約30万。

旅行は、10万弱。個人的費用は、10万弱。

旅行:30万(二回行ったため) 買い物:10万

## 5. 学習面について

### 語学力・コミュニケーション能力の自己分析

ホストファミリーと積極的にコミュニケーションをとることを意識していたため、自然と日常会話レベルの英語は身に付けることができました。間違ってもいいからとにかく伝えてみようという気持ちで会話をしていました。その結果、ホストファミリーや現地の先生方は優しく発音や文法について丁寧に教えていただきました。その結果、語学力とコミュニケーション能力は留学前と比べると格段と上がりました。

語学力は向上したと思います。特に日本にいる間と比べてリスニング力、スピーキング力がかなり向上したと感じます。コミュニケーション能力も多少向上したように感じます。

発音が以前より良くなった。以前は英語を話すことに対して、自信がなく恥ずかしかったがそれがなくなったため、積極的に話せるようになった。

コミュニケーション能力はついたと思う。

日本と違い、周りのひとがフレンドリーでカフェなどに行くに隣に座った人と仲良くなることも多くありました。その文化に自分も馴染んでいき積極的にコミュニケーションをとる意識がついたと思います。

4技能のスキルは向上した。

初めは、ホストファミリーの言っていることが分からず、何回も聞きなおしていましたが、一緒に過ごしていくうちに、だんだんもしかしてこういうことを聞いているのかな、こういうことを伝えようとしているのかなというはっきりとは聞き取れないが、ニュアンスが分かるようになり、ホストファミリーとの会話がスムーズになっていったと思う。3か月という短い期間では、自分が思っているより英語が流ちょうに話せるようにはならなかったが、失敗を恐れずに、わからないことや知らない人に話しかけることに抵抗を感じなくなった。

### 留学前の目標とその達成度

留学前の目標として私は2つ掲げていました。その目標とは日本文化の魅力を発信するようなイベントを作成することと国際交流のコミュニティを作ることでした。前者に関しては毎週金曜日に留学生が楽しめるイベントを現地のスタッフが用意してくれていたのですがその枠を1ついただき、イベント実現が叶いました。後者の国際コミュニティに関しましては卒業式のスピーチで宣伝させていただき現在は約50人の方に参加していただいています。国際コミュニティでは週に一度国境を越えて日々の生活を英語で語り合おうというモチーフで活動を行う予定です。このように留学前に明確な目標を立てていたため、どちらもかなえることができました。

TOEIC や TOEFL の点数を上げることを目標としていたので今後そのような試験を受けていきたいと思います。

日常会話ができるようになるという目標を立てていた。目標は達成できたと思う。

留学前の目標は流暢に英語を話せるようになることでした。完全に流暢というわけではないけれど、発音も直し、ジャパニーズイングリッシュから成長はできたと感じます。

目標は、日常生活と海外旅行に行ったときに困らない程度の力をつけること。ある程度一人でできるようになった。

留学前の目標は、外国人の方と日常会話ができるレベルになること。達成度は、60%。ホームステイだったということもあり、毎日英語を使ってコミュニケーションをとると、学校で英語を使って授業を受けていたので、簡単なフレーズで会話を始めることはできるようになったと思う。しかし、会話を続けることが難しく、また言っていることがうまく理解できないなど、完璧に外国の方と会話することはできるようにはならなかった。日本人が多かったということもあり、日本語に頼ってしまう場面が多かったということも目標達成できなかった理由の一つだと考える。

日常会話を楽しめるようになる、という目標を達成できた。

留学前の私の目標は、自分のおしゃべりな性格を現地でも実践することでした。80%ほどは達成できました。特に授業中や休み時間、クラスメートとのコミュニケーションはとても充実したものにできました。現地の人たちと遊び、会話が止まったときに自分から話題提供をすることに少し苦しみました。日本語のようにペラペラと話せないことが歯がゆく、もどかしさを感じました。

#### 留学を通しての成長ポイント

留学を通して私は積極性とリーダーシップ力を身に付けることができました。何度も記していますが、日本文化のイベントや国際コミュニティを作成することで2つの力をさらに付けることができました。また卒業式の際には、私のみ舞台に呼び出され、リーダーシップアワードの賞状を頂き、このような賞をいただいたことで今後の活動の自信につながるものへとりました。また留学中、就職活動をしていたこともあり、スケジュール的にもとてもハードではありましたが、今回の留学を通じて、この日までにはこの時間までにはというスケジュール管理能力も身に付けることができました。

コミュニケーション能力の伸びを一番感じます。自分の意見をより言えるようになりました。

周りを気にしない、自分を出す、意見を言う。

英語力、コミュニケーション力、積極性、よりアウトゴーイングになったと思います。

積極性、コミュニケーション能力。

失敗を恐れずに挑戦すること。まずやってみること。この二つがこの留学を通して成長したポイントだと思う。一緒に留学をしていた外大生と10人くらいのメンバーと日本文化についてのアクティビティを開催した。そのアクティビティには、30人ほどの外国人が参加してくださり、その企画は大成功に終わった。そこでの得るものが大きく、やってよかったと思う。そこからやってみたいことは挑戦してみようと思うようになり、自分が成長したと感じた。

#### 留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

留学前も IEP を通じて周りの仲間から常に刺激をもらっていたので、モチベーションが低下することは全くなかったです。留学中は過密なスケジュールだったため、すべてを投げ出したくなるようなこともありましたが、日本の仲の良い友達や積極的に活動している仲間からお話を聞き、常に刺激を受けながら留学生生活を過ごしていました。留学後は TOEIC などの語学試験を積極的に受験していく予定です。また留学先で培った語学力を無駄にしないよう、秋学期からは IEP の継続や留学生に対して日本の魅力が伝わるようなイベントを実施する予定です。

留学前はそれほど高くなく「しなければ」と思いながらしていました。留学中は嫌でも毎日のように英語を使わなければなりません。留学中に語学学習に対するハードルが下がったように感じます。そして、留学後はできるだけ毎日英語に触れるようにしています。

留学前からモチベーションは高かったが留学後さらに上がった

最初は典型的なシャイな日本人でしたが、ホストファミリーとのコミュニケーションや日々の授業で英語で発言することを躊躇いなくできるようになりました。日本に戻っても出来る限り英語が話せる環境づくりができたらいいなと感じました。

特に変わらなかった。ただ留学中は必死になっていたし、過去一勉強した。周りに人間の影響やお陰でもあると思う。

留学前:これからカナダに行く楽しみで、海外の映画を見たり、英単語の勉強をしたりして、モチベーションは上がった状態でした。留学中:英語のレベルによってクラス分けするが、英語力がうまい人を見て、英語の勉強を頑張らないと思って頑張っていたが、留学中盤に少しモチベーションが下がることがあった。その時には、ホストファミリーと話したり友達と話したりし、前よりも話せるようになっている成長していることを実感し、モチベーションを上げて頑張った。留学後:帰国し、さらに英語に対する学習意欲が増した。英語を習得できるように、頑張っている。

### 留学中 100%力を振り絞った瞬間

私が留学中に 100%力を絞った瞬間は日本文化のイベントの主催者をしたことです。留学先の大学のスタッフの方にも言われたのですが生徒がこのようなイベントを企画して実施するのは初めての取り組みだと聞いていたため、少し不安な点もありましたが、私の企画に協力してくれる日本人の仲間がいたため、成功を収めることができました。またイベント当日、私は日本文化を通じて多くの海外の学生さんが楽しんでいる姿をスタッフ側から見てとてもやりがいを感じるものとなり、頑張った人にしか味わえない貴重な体験をすることができました。

留学終盤にどの授業もプレゼンテーションやディベート、テストがあり時間を効率よく使うようにしていました。

トロントへの旅行の際、飛行機の乗り継ぎで荷物トラブルにあったことだ。一人だったため、全部自身で解決しないとイケないのが非常に大変だった。

ファイナルテスト

毎授業本当に全力でした。

留学中に100%力を振り絞った瞬間は友達とトロントに旅行した時。英語しか話せない状況で、空港からホテルまでの行き方を聞いたり、店で店員さんと話したり、道を聞いたり、予約していたツアーが当日でドタキャンされ、必死に自分たちでナイアガラの滝を見に行ったりと色々なアクシデントに見舞われたが、そこでつたない英語で必死に伝える姿勢や、一人の意見でなく複数の意見を聞くことなど、学ぶことが多かった旅行でもあり全力を出し切った旅行でもあった。

### 留学先大学の良かった点

毎週金曜日の午後に留学先の地域のいろんな観光地に案内していただく活動がありました。そこでは大学内の人のみならず、多くの方々と交流する機会があり、とてもいい経験になりました。また私が日本文化のイベントを実施した際も真摯に相談に乗って下さり、のびのびとイベントをすることができました。

Friday Activity というものが毎週金曜日にあったことです。私が留学に行った期間は、現地の学生は長期休みでしたが、このアクティビティでは交流することができます。

先生が優しい

金曜日の午後はアクティビティがあり有名な観光地や学校内で色々な経験ができ、他の国から来た留学生の友達ができたと。

Friday activity はとても良かった。環境は最高でした。

基本的に校舎はきれい。先生も親切。入るときにカードを警備の人に見せないといけないので、セキュリティがしっかりしていて安心して通えた。毎週金曜日のアクティビティでウィニペグの観光ができたことよかったです。